

樽川の歴史

樽川は「小樽内川」が省略されたもので、「小樽内」はアイヌ語の「オタ・オル・ナイ」（砂浜の中の川）に由来しているようです。

■樽川村のはじまり

安政6（1859）年に松浦武四郎が、銭函から東に弘化3（1846）年にはなかった人家が続いていると記しており、樽川にいつ頃から人が住んでいたかがうかがえます。樽川村の開村は明治15（1882）年で、明治18（1885）年には、山口県から43戸と別に12戸が入殖しています。



■石狩町酪農の中心地に

その後、北海道の植民区画により開拓が進められ、明治35（1902）年、花畔村との合併で花川村に、明治40（1907）年、石狩町との合併で石狩町となりました。明治30年代から堆肥確保や現金収入目的で酪農が行われましたが、大正7（1918）年開設の「極東農場」や南線地区の「町村牧場」の影響もあり益々盛んになって、樽川は石狩町酪農の中心地となりました。

■稲作への転換

昭和20年頃になると、酪農と混合経営されていた畑作が地力の低下で衰退して、稲作への転換が図られました。そして昭和25（1950）年には、421haの水田が造成されて、水田・酪農混合経営が進められました。一方、漁業は、サバ、イワシ、ヒラメ、ニシン、マス、サケ漁などが行われています。

■石狩湾新港建設の影響

昭和50（1975）年、石狩湾新港の管理方式の合意により樽川の一部8.75km²が小樽市に編入され、65戸（農業者30、漁業者22）314人が石狩町域に移転することになりました。

■近年は人口増加

平成になって、道道44号線（手稲石狩線）沿いの樽川地区は平成4（1992）年から平成14（2002）年にかけて順次市街化区域となり、大型店舗の誘致や宅地分譲が行われました。その結果樽川は、石狩市の中で人口が増加（平成15年：3,174人、平成20年：4,323人）している地域となっています。

（石井滋朗）

- 樽川地主会（1977）樽川百年史、樽川地主会。
- 石狩町（1985）石狩町誌／中1、石狩町。
- 石狩市教育委員会文化財・博物館開設準備室（2001）ふるさといしかり、石狩市教育委員会。